

科目コード S&M021117

科目名	経済学概論 Introduction to economic theory		選択	2単位
学期・曜日・時限	春・火曜・3限	春・火曜・6限	-	-
担当教員名	里見 泰啓	e-mail		
講義形式	ハイフレックス（教員は講義室から講義を実施） ※対面履修生は全回講義室から参加			
<p><講義の概要と目的></p> <p>企業経営は経済の動向に影響を受け、経済学は経営理論にも応用されている。この授業では経済学への入門としてミクロ経済理論とマクロ経済理論の基礎を講義する。経済理論の背景には経済思想や社会哲学があり理論に反映している。経済理論とともに理論の根底にある思想の内容も解説し、市場経済に関わる経済学の体系を概観するのが目的とする。</p> <p><到達目標></p> <p>経済理論の基礎を知り経営理論への理解を深めること、公正で発展性のある市場経済や企業行動、創業活動を考える力を高めるのを目的とする。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>期末に受講生のレポートをもとに討議する。</p>				
<p><講義計画></p> <p>講義計画は以下の通り。ただし講義の進行状況によっては、講義計画を若干変更する場合がある。</p> <p>1回目：経済学の考え方と経済主体</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：経済学の性格、経済モデルのなかの登場人物（経済主体）、経済理論の前提について解説し、講義の全体像を示す。 <p>2回目：需要と供給</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：価格と需要量の関係を示す需要曲線と価格と生産量の関係を示す供給曲線がどのように導かれるかを解説する。 <p>3回目：市場均衡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：ある価格の下で需要と供給が一致する均衡点が経済にとって望ましい状態なのかを余剰概念を用いて解説する。 <p>4回目：消費者の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：個々の消費者がどのように商品やサービスを選び、購入するのかを効用という概念を使って解説する。 <p>5回目：企業の生産活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：企業が消費者の好み（選好）に応じて、どのようにして利潤が最大になるように生産するかを解説する。 <p>6回目：再び市場均衡と企業者行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：消費者の購買行動と企業の生産活動を基に市場均衡の意味を考える。また経済の動因となる企業者機能を解説する。 <p>7回目：マクロ経済学の視点と経済循環</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：マクロ経済理論がどのように経済を見ているのか、そして経済活動のどの側面を分析しているのかを概観する。 				

8 回目：国民所得の決定

・要点：国民所得（GDP）の水準はどのようにして決まるのか。国民所得の決定メカニズムを解説する。

9 回目：財市場と貨幣市場の均衡

・要点：商品やサービスの需給の均衡、貨幣の需給の均衡するメカニズムを解説する。また経済の安定を目指した経済政策を概観する。

10 回目：生産要素市場の均衡

・要点：生産活動に不可欠な資本、労働、土地といった生産要素のうち、とりわけ労働に注目して生産要素市場の均衡について考える。

11 回目：アダム・スミスの経済思想

・要点：アダム・スミスの経済思想を中心に古典派経済学の経済思想とマーシャルの経済思想を概観する。

12 回目：ケインズの経済思想

・要点：ケインズの経済思想を自由主義的な経済思想を対置して概観する。

13 回目：日本型経済システム

・要点：日本人の経済行動と経済システムとその源流について概観する。

14 回目：今後の学習のために

・要点：この講義を切掛けとして経済学の知識を豊かにする際に学習が望まれる理論を紹介し、概説する。

15 回目：まとめと討論

・要点：受講生のレポート題材に討論し、まとめとする。

<講義の進め方>

- ・講義は、Teams 等に掲載する講義資料を中心に進める。
- ・小レポートをもとに受講生とのディスカッションを重視する回がある。また小テストを実施する予定である。
- ・受講生の興味、理解に応じて、若干、講義計画を変更する場合がある。

<事前事後学習内容>

講義ノートを中心に必要に応じて参考文献を用いて予習・復習をする。

<予習・復習時間>

各回の予習・復習には計4時間相当かかると想定され、詳細については講義時に指示をします。

<教科書及び教材>

教科書は特に指定しない。講義ノートを配布する。

<参考書>

坂井豊貴『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書（2017）
中村隆之『はじめての経済思想史ーアダム・スミスから現代まで』講談社現代新書（2018）
中谷 巖『マクロ経済学入門 第2版』日経文庫（2007）
安藤 至大『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣（2021）
平口 良司 稲葉 大『マクロ経済学 第3版：入門の「一歩前」から応用まで』有斐閣（2023）
など。その他は適宜、講義のなかで紹介する。

<成績評価方法>

欠席 6 回以上は成績評価しない。

小テスト 50%、レポート 50%で評価する

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

Teams 等にて全体に対するフィードバックを行う。

<履修条件>

特になし

<ディプロマポリシーとの関連>

基礎知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー> 火曜 5 限

<その他>

講義資料、参考文献の他、経済学への関心に応じて文献などを参照してもよい。